

平成18年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	新しい指向性を持つ幼児教育分野の教員育成を目的としたeラーニングの開発と適用		
法人名	学校法人石川学園		
学校名	専門学校大育		
代表者	理事長 石川 正一	担当者 連絡先	石川 正剛 TEL098-885-5330
<p>1. 事業の概要</p> <p>幼稚園教諭や保育士などの教育スタッフを目指す専門学校生に対する教育プログラムを開発し、その実証をおこなった。幼児教育の局面としては、近年特に幼児教育の段階で必要性が唱えられている「ものを考え行動する力」の教育部分を取り上げ、その実効性を向上させるために、教育スタッフ自身の人間力(ヒューマンスキル)強化を狙ったものとした。この教育プログラムの中核をなす教材は、eラーニング化を行い、グループ学習との組み合わせを行うことによって教育効果の高い教育プログラムとした。実証実験を行い、その有効性を確認することができた。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>実態調査・教育プログラム開発・実証実験の各成果について、当初予定していた以上の達成度であったと評価している。実態調査では、各幼児教育の相互比較などにより、これまでにない教育内容の選択に新たな判断材料を提供することができた。事業の中では、重点的に取り組んだ教育プログラムについてもその実証実験の結果から、この分野では置き去りにされてきた大事なヒューマンスキルを強化するという目標に到達できる内容を持つものとして完成することができた。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>今回、幼児教育スタッフのヒューマンスキル向上のための教育プログラムを開発したが、ここでの具体的な成果は以下2点に集約できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 代表的で実績ある幼児教育を包括的に整理した報告内容は、幼児教育および教育スタッフ育成の関係者に対し、これまでにない資料を提供することができた。 ・ これまでに幼児教育スタッフには提供されて来なかったヒューマンスキルを強化する実効性の高い教育プログラムをスタッフ育成関係者に提供することができた。 <p>③今後の活用</p> <p>本事業成果の中で、直接的な今後の活用対象となるものは、実態調査・教育プログラムである。実態調査はその内容から、今後幼児教育に取り組む意向のある専門学校をはじめとした教育機関において参考資料として利用して貰えると考え。また、教育プログラムは幼児教育を事業として取り組む主体がそのスタッフ育成の研修に利用する局面、また、幼児教育スタッフ育成を行っている専門学校などの学生の教育に利用する局面があると考え。</p> <p>④次年度以降における課題・展開</p> <p>本事業成果である教育プログラムは、幼児教育スタッフのヒューマンスキルを向上させるには完結性の高いものとなった。そこで、今後の課題はこの教育プログラムを広く普及させるための活動をするところにある。そこで、今後、関係分野の組織や教育機関にアプローチを行い、活用方法について協議をする予定である。</p>			

3. 事業の実施に関する項目

①実態調査

幼児教育スタッフ育成のために、その対象領域である幼児教育自体の実態を把握するため、事業テーマである「ものを考え行動する力」を調査の観点として置き、比較的実績のある内外9件の幼児教育の内容および具体的な適用事例を調査した。

実施の手順としては、まず調査対象のリストアップと絞込みを行い、その上で各幼児教育に関して、具体的調査のためのWeb や文献などからの一次情報収集を行い、さらに二次調査として、各方法論の支持者等へのヒアリング等を実施し、報告内容としての補強を行った。

調査および分析の結果として、海外の幼児教育に比して国内の幼児教育は、「ものを考え行動する力」に関しての対応が弱く、所謂「学力」に偏重している傾向が明らかとなった。

また、付帯的な調査として、文部科学省「学ぶ力」との関係を分析し、さらに沖縄県の保育サービス実態についてもその概略を分かり易く纏めた。

②教育プログラム

教育プログラムの開発に際しては、実態調査の結果とその分析内容を受けて、幼児に「考え行動する力」を付けさせるためには、その指導にあたる教育スタッフに「考え行動する力」を持たせることが先決であることから、幼児教育スタッフのヒューマンスキルを向上させることをテーマとして取り組みを行った。

具体的には、既に前年度までに開発済みのヒューマンスキル教育プログラムの基本スキーム(構造、手順など)を踏襲し、内容については、幼児教育スタッフにとって身近で整合の良いものを設定し、新たに内容を追加し開発を進めた。

今回開発対象としたヒューマンスキルの要素は、セルフマネジメント・戦略思考・ロジカルシンキング・プレゼンテーションであり、標準的な実施総時間数は、22.5時間とした。

なお、今回の教育プログラムは、eラーニングと集合学習を総合化したブレンディッドラーニング形態とし、グループ学習をより効果的に実施できるように、eラーニング教材のスキームを組み上げた。すなわち、講義風景をビデオで撮影し、その際に利用した教材や資料を同期させながら学習者に教育内容を提示することができるeラーニングコンテンツとして完成させた。

③実証実験

幼児教育スタッフのヒューマンスキルを向上させる教育プログラム開発成果の有用性を実証するための一環として、カリキュラム体系に位置づけられた主要項目をモデル化した講座を実施し実施状況を検証した。

2月16日(金)～21日(水)の期間に、石川学園において在学生8名を被験者とし、その初日と最終日にそれぞれ4時間程度の講座を実施し、この両日に挟まれた期間には、課題や準備に取り組む形態とした。

初日の16日は、ヒューマンスキルを取り扱った開発eラーニングコンテンツを利用し、主にこの分野の知識獲得と課題提示を目的に実施した。最終日の21日はそれまでに身に付けた知識や準備した素材を使ってグループによる学習を実施した。

受講後のアンケート結果から、総じてこの教育プログラムがヒューマンスキル向上に効果的であるとの回答を得ることができた。

④その他

本事業成果である教育プログラムは、eラーニングと集合教育を組み合わせたブレンディッドラーニング形態を採用している点に特徴がある。特にヒューマンスキルの分野のスキルを高める目的で、グループワークを実施する形態であるが、この前段で必要な知識を獲得するためにeラーニングを利用する形態を採用した事によって学習効果が高まった点は最も工夫した点である。